

未来の自分をつくる 「めざす働き方」実践講座 Vol. 6



仕事と暮らしの研究所 代表 鹿野 和彦氏

1991年に広報PR&人材育成支援等を行う株式会社アブレ コミュニケーションズを設立、2001年には仕事と暮らしの研究所を設立して労働組合・大学・自治体などのシンクタンクとしてサポート事業を展開。大正大学キャリア教育研究所招聘研究員、労働組合・各種団体の客員研究員。著作のテーマは人材育成、教育・社会問題、広報関係等幅広い。

環境変化を捉える方法（1）

「めざす働き方」を実現するためには、「自分を棚卸し」し、自らの価値観や強みなどを明確にすることが大切です。一方、世の中が変化すれば求められる仕事や働き方も変化するため、社会の動向を見据えながら働き方を模索する必要があります。今号では、「環境変化を捉える方法」のひとつとして、日々のニュースから世の中の変化を把握する際のポイントをまとめます。

時代によって産業構造は変化する 時代の変化を読む力が必須スキル

農林水産業は第1次産業、製造業は第2次産業、サービス業は第3次産業と呼ばれます。そして現代は、ICT（情報通信技術）の進展で情報産業、知的集約ビジネスが隆盛を極め、第4次産業として位置づけられています。さらに最近では、AIやロボット技術を背景に、第1次産業から第4次産業を融合する新たな産業、すなわち第5次産業が生まれつつあり、私たちは今、産業構造の大きな転換期のなかを生活しているといえるでしょう。

「めざす働き方」を考えるのであれば、こうした世の中の変化を適切に把握し、自分が活躍できるフィールドを見極めることが大切です。なぜならば、自分が就きたい仕事や求める働き方が未来永劫に存在している保証はないからです。また、仕事そのものがかろうじて残ったとしても、ロボットに代替されてしまうことも想定されます。「めざす働き方」を実現するには、自分の価値観や強みを見つめるだけでなく、世の中の流れを敏感にキャッチし、働く環境の変化を推察するための洞察力を身につけることが必須です。

時代を読み解くには体系的な知識が必要 ネットに頼らず信頼できる情報源を探る

時代の変化を読み解くためには、世の中の動向や変化に関する「情報」を収集することが大事です。

しかし、日々膨大な量の情報が流されている今日、どのような情報を取捨選択すれば、適切に世の中の動きを把握することができるのでしょうか。答えは、体系的な知識を得ること。ネット情報に頼らず、きちんとした見識を持ち、明確な基準で集約された情報を入手することです。

具体的には、今後の環境の変化を予測した書籍や雑誌を読むこと。また、政府や民間シンクタンクが刊行している「白書」や「未来予測」に関する書籍、資料に目を通すことが基本です。

ネット社会の到来で、私たちは容易に情報を入手できるようになりました。しかし、ネットで入手する情報は断片的で、知らず知らずのうちに「偏って」しまうのが特徴です。自分が欲しい情報を自分の視点（価値観）で入手するために、思考の範囲が狭まり、考え方も固まってしまうことが少なくないのです。

ネット情報に依存しがちな人は、一度書店に足を運び、政治や経済、ビジネス関係のコーナーを訪れてみましょう。そして、これからの政治や産業、仕事の変化について書かれた本を購入し、じっくり読み込むことをおすすめします。また年末になると、翌年の政治や経済、ビジネスの変化を先取りしようと、複数のビジネス雑誌がトレンドを予測する特集記事を組みます。「書籍を読むのはちょっとハードルが高い」と感じた人はまず、ビジネス雑誌の特集記事を読むことで世の中の動向を知り、その雑誌に寄稿している有識者が書いた本を購入するという手順を踏むといいでしょう。



新聞＝プロの編集者が体系化した媒体週末のクリッピングを習慣にしよう

新聞は、書籍、雑誌以上に身近な情報源です。ソーシャルメディア全盛の今、新聞は情報源としての役割を終えているとの指摘もありますが、真偽が怪しいネット情報と比べて、プロの記者が事実の裏取りをしながら書いた記事は信ぴょう性が高いといえます。また、全国の記者から寄せられた情報から有意義なニュースを選び抜き、紙面に反映する編集者の存在は、世の中の変化を的確に捉えるうえで大変貴重なものといえるでしょう。

世の中の変化を適切に捉えるスキルを身につけようと思うなら、新聞記事をくまなく読む習慣をつけること。さらには複数の新聞を読み比べ、論点の違いなどを見極めるようになるまで読み抜くことです。

また、下記の視点を参考に「めざす働き方」の実現に役立ちそうな記事に付箋をつけ、週末に当該記事を切り取ってスクラップブックにまとめたり、スキャンをしてパソコンに取り込んだりしていくといでしょう。オリジナルのスクラップブックが「めざす働き方」を実現するための貴重な情報源になります。

「めざす働き方」実現に役立つ記事の見極め方

- ☐ 損保業界に関するニュース（新商品、新技術、人事制度、競合他社に関する記事等）
- ☐ 営業に影響を与えるニュース（商品に関連する事故、商品化の対象になる事故、トレンド等）
- ☐ 政府・シンクタンク発のニュース（調査データ、白書、予測記事等）
- ☐ 働き方、働く人に関するニュース（労働法制、働き方改革、勤務スタイル、ビジネスパーソンに関する動向等）

収集した情報をもとに「考える」習慣を「めざす働き方・推進ノート」をつくる

世の中の動向や、働く環境の変化に関連した情報を集めることで、予測できる将来の姿がある程度見えてきます。しかし、自らの「めざす働き方」を実現するためには、情報を集めるだけでは不十分です。収集した情報をもとに自分自身の仕事がどのように変化するか、また変化に対応するにはどうすればいいかを考えなければなりません。

具体的には、以下のような「めざす働き方・推進ノート」をつくり、将来の自分の働き方と、未来の自分をつくるための課題を書き込んでいくといいでしょう。最初は漠然としていた自分の将来像が、書き出す量が増えるにつれて、より明確かつ具体的になっていくはずです。

「めざす働き方・推進ノート」の作成方法

1. 1ヵ月で読んだ本、雑誌の目次を書き出す（余白を多くとる）。
2. 余白の上側（横書きの場合は左側）に、記事を読んだ感想（気づいたこと、感じたことを何でも）を記述。下側（横書きの場合は右側）に、自分の仕事に与える影響と自分が取り組むべき課題を記述する。

▶ ノート例

【横書き】

【感想】	【目次・見出し】	【影響・課題】
AIの技術がここまで発達していることは知らなかった。近い将来、自分が普段行っている業務をAIが代行してくれるかも知れない。そうなったら、新しい業務にチャレンジできるなあ！ ○○○○○○○	AIの頭脳vs人間の感性—人が働く価値ってなに？ ■■■■■■■	今の業務は近い将来AIが代行する可能性が高い。一方でAIができないような高度な判断が必要な業務をより多く担う必要があることから、今以上に専門的な知識を深めていく必要がある。 △△△△△

【縦書き】

【感想】	【目次・見出し】	【影響・課題】
AIの技術がここまで発達していることは知らなかった。近い将来、自分が普段行っている業務をAIが代行してくれるかも知れない。そうなったら、新しい業務にチャレンジできるなあ！ ○○○○○○○	AIの頭脳vs人間の感性—人が働く価値ってなに？ ■■■■■■■	今の業務は近い将来AIが代行する可能性が高い。一方でAIができないような高度な判断が必要な業務をより多く担う必要があることから、今以上に専門的な知識を深めていく必要がある。 △△△△△

例に使用した記事は損保労連ホームページに掲載しています。〈未来創造PTサイト「NEWSトレーニング」〉（「AIの頭脳 vs 人間の感性」の記事を例として使用）
<http://www.fnii.or.jp/mirai2/news4.html>

本シリーズは損保労連ホームページにも掲載しています
(URL : <http://www.fnii.or.jp/mirai2/>)

特設サイトはこちらから読み込めます→

